

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170202873		
法人名	水森商事		
事業所名	グループホーム せせらぎの里		
所在地	札幌市東区東苗穂7条3丁目1-5		
自己評価作成日	令和1年 11月 5日	評価結果市町村受理日	令和1年 12月 25日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0170202873-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和1年11月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設ににいるという思いをさせないよう、利用者一人一人がホームの中で自由に過ごし思いを汲み取るケアを心掛けており、意思の抽出が困難な方には苦痛を感じることがないように状況に合わせたケアを行っています。冬場の外出は難しいのですが、夏場は近所を散歩したり隣の薬局に買い物に出掛けたりと、季節を感じて頂けるよう心掛けています。また、向かいの小学校の生徒や1階の保育園の児童と交流したり、敬老会やクリスマス会ではボランティアの方々の出し物を見たりと、笑顔で過ごすことが出来るホームを目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホーム せせらぎの里」は、バス停から1分程の住宅地に立地している建物の3階にあり、1、2階は保育園や同一法人のグループホームになっている。近くには銀行やドラッグストア、ファッションセンターなどの商業施設もあり生活の利便性が高い事業所である。建物内は居間や台所を中心にした回廊型で、浴室やトイレは居間から見えない場所にありプライバシーに配慮した造りになっている。壁には季節の装飾や小学生が作成したちぎり絵などが飾られている。保育園児がクリスマス会に訪れて遊戯を披露したり、小学校の5年生が授業の一環で毎年訪れて利用者と一緒に折り紙やゲームを楽しんでいる。また、冬季以外は児童館の子供たちが毎月訪問して歌や踊りを披露するなど、子供との交流を長い間継続して実施している。災害対策の面では、火災以外にも水害や地震を想定して同一法人のグループホームと合同で避難訓練を実施している。前回課題として捉えていた食事面では、戸外での焼き肉や出前などを取り入れるなど工夫した取り組みを行っている。今年度は利用者の希望を反映させて、初めてプラントーでのミニトマト作りにも挑戦している。現在は自立している方が多いため、全職員で一人ひとりの意向を聞き取りながら、それぞれの利用者が楽しい日々を過ごせるように笑顔で温かなケアを行っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かかっている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念、ケア理念をユニット入り口に掲示している。カンファレンス等で話題にし理念の共有に努めている。	職員は、ケア理念の『私たちは常に「ふれあい」を大切にします』という項目に、地域との関わりを意識している。入社時やカンファレンスで説明しているが、今後も地域密着型サービスを意識した内容として再確認していく意向である	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	1階の保育園や札幌小のミニ児童が定期的に来訪したり、行事ではボランティアの来訪している。また、夏場は隣の薬局や近所の散歩に入居者様と出かけている。	小学生が来訪して折り紙やゲームと一緒に楽しんだり、児童館の子供たちが歌や踊りを披露している。クリスマス会には、保育園児の遊戯披露などもある。手話の踊りボランティアも訪れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域包括支援センターと連携し、向かいの札幌小学校5年生が道徳授業「心のバリアフリー」として毎年訪問している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月毎に開催している。その場で各ユニットの近況報告や行事の様子を報告したり、その季節に応じた感染症などの議題を話している。	事業所の報告を中心に、食中毒や身体拘束廃止委員会の設置について説明している。今後は外部評価結果なども話し合う予定である。議事録は全家族に送付しているが会議案内は送付していないため、家族の参加はほとんど得られていない。	テーマを記載した会議案内を全家族に送付し、参加できない家族の意見を事前に聞き取り、会議に活かすよう期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	申請等がある際は市役所や区役所の窓口へ行き手続きを行っている。また、運営推進会議では地域包括支援センターの職員や町内会長、民生委員の方に参加して頂き協力関係の構築をしている。	管理者は、介護保険の更新手続きや書類の提出などで市役所を訪問している。保護課の職員と電話で話をしたり、事業所に来訪した時に利用者の様子を伝えながら情報交換している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会でマニュアルを作成している。職員はいつでも読むことが出来るよう、そのマニュアルをスタッフルームに置いている。年1回は身体拘束と虐待についての勉強会を行っている。	「禁止の対象となる具体的な行為」を記載したマニュアルを整備している。外部研修の資料を閲覧して情報を共有したり、ミーティングで内部研修を実施している。身体拘束廃止委員会や内部研修の書類を分かりやすく整理したいと考えている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束委員会で虐待についてのマニュアルも作成しており、職員はいつでも読むことが出来るよう上記同様スタッフルームに置いている。年1回は身体拘束と虐待についての勉強会を行っている。		

グループホーム せせらぎの里

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	運営推進会議で地域包括支援センターの職員から話を伺う機会はあるが全職員の把握は出来ていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の際に時間を設けて説明を行っている。その際は文面の説明だけではなく、具体的な例も挙げながら説明し納得して頂けるようにしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時には近況報告を行い、遠方のご家族様へは月に1回の「せせらぎ通信」で近況報告を行っている。面会時の家族様との会話の中から要望を汲み取るようにしている。	家族の意見や要望の内容に応じて、介護計画に取り入れたり口頭で職員に伝えている。今後は些細な意見も個別の記録に残し、継続的に情報が共有できるようにしたいと考えている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃の申し送りや業務等の会話、また月1回行うミーティングで出来る限り意見を聞き反映させるよう努めている。	管理者は、検討課題があればその都度職員と話し合っって運営やケアに反映させている。職員からの提案で勤務時間帯の業務内容を見直したり、個別ケアについて意見交換している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	面談を行うことはないが各職員との会話や、管理者を通し勤務状況等の把握をしてくれている。評価表のようなものはあるのか不明である。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内研修では実施日、研修内容を事前に通知し参加を促している。外部の研修は案内があった際に掲示し参加を促したり、各職員へ研修を受けないか声をかけている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者会議や研修で交流する機会がある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に出来る限りの情報収集(過去の施設や病院、家族様など)を行っている。入居者様がスムーズにホームでの生活をスタート出来るよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前や入居時にご家族様に情報収集シートをお渡しし、記入して頂いている。また、面会時に近況報告を行い、要望などもお聞きしながら話しやすい関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	施設の見学時から希望や要望を聞き、出来ないことは明確に伝えつつ、出来る限り想いに沿えるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自分の洗濯物を畳んだり居室の掃除を一緒に行ったりし、楽しみながら生きがいを持って過ごせる環境作りを行っている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に近況報告をしたり、月1回のせせらぎ通信で日々の生活を把握して頂いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	特定の入居者様だが、友人が面会に来ることがある。また、必要時に関係が途切れることがないよう体制を整えている。	入居前に利用者に関わりのあった方が来訪することもある。職員と一緒に好きな洋服を買いに行ったり、受診後に家族と一緒に自宅の様子を見て来る利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様それぞれの性格や相性を考慮し、入居者様同士が自然に過ごせるようホールでの座席など環境作りに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用終了後であっても対応出来る体制は整えているがその様な相談などは今のところない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話の中から入居者様の意向の把握に努めている。意向の抽出が困難な場合はご家族様から意向を伺い本人本位になるよう努めている。	会話や表情などから思いや意向を把握している。利用開始時にセンター方式シートを使用して家族から情報を得ている。今後は定期的にB-3シートを活用し、追記や更新を行う予定である。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にご家族様から生活歴などを伺ったり、以前の病院や施設からも情報をお聞きし、出来る限り把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居時に情報ノートを作り有する力や趣味嗜好の把握に努めている。連絡ファイルを使用したり、業務日誌や生活記録に記入し、申し送り時にも職員間で話し合い情報共有に勤めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者様やご家族様からの意向を基に、担当職員が月に1回のモニタリング、3ヶ月に1回目標評価しサービス計画作成者と相談しながら作成している。	利用者担当職員と計画作成担当者を中心に、3か月ごとに評価と介護計画の見直しを行っている。記録類を分けて綴っているが見直しの流れとして分かりにくい。日々の記録に介護計画サービス内容の番号を記入して評価に活かす意向である。	介護計画の見直しの一連の流れが分かりやすいように書類の整備を期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録を生活記録に細かく記入し、職員全員が情報共有をした上でカンファレンス等で意見を出し合い行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人との会話や家族様からニーズを伺い、職員全員が情報共有しながら取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	小学生の授業の一環での来訪受け入れや、保育園児の遊戯披露など交流する機会を設けている。敬老会などのイベント時にはボランティアとの交流も行っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	元々のかかりつけ医がおり、継続して受けることを希望する場合は継続が可能なように体制を整えている。当ホームの主治医は2週に1回往診に来ており、歯科医や柔道整復師の往診もある。	全員が内科の往診を受けているが、専門医はかかりつけ医を継続している方もいる。家族と受診する時は口頭で状況を伝えて適切な医療支援につなげている。往診と受診記録を分かりやすく整理したいと考えている。	

グループホーム せせらぎの里

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問時に相談や情報提供を行いアドバイスを受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者が入院した際は病院の看護師やSW、ご家族様と情報の共有を図っている。また、退院後の対応についても詳しく相談しスムーズに受け入れすることが出来るよう体制を整えている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の対応指針や看取りを行っていることを入居契約時に説明している。重度化した場合、主治医、看護師、家族様、管理者と担当者会議を開催し、何をどこまで行うか対応を決めている。	利用開始時に、重度化の指針と看取りに関する指針に沿って事業所として可能な対応について説明している。常時医療行為が必要になった場合は対応が難しくなるが、家族の意向に沿って看取りも実施している。ここ数年で2名の看取りを行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故時のマニュアルを作成しており、いつでも見ることが出来るようにしている。しかし救命救急の講習を受けていない職員が増えている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災や地震、水害を想定した避難訓練を年3回行っており、年1回は消防署職員が立ち会い訓練を行っている。その際はホーム内の危険な箇所などアドバイスを頂いている。	法人事業所合同で火災や水害、地震を想定した避難訓練を実施している。年1回は消防署の協力の下に建物全体で避難訓練を実施しているが、地域住民の参加は得られていない。職員の救急救命訓練の計画的な受講も今後の課題となっている。	地域との協力体制を確認し、避難訓練に地域住民の参加が得られるような働きかけを期待したい。計画的に職員の救急救命訓練の受講を進めるよう期待したい。また、地震災害時などのケア別の対応について話し合うよう期待したい。

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人の性格を考慮し不快な思いをしないよう一人一人に応じた対応を心掛けている。	苗字に「さん」付けで名前を呼びかけ、職員は笑顔で丁寧に対応している。面会簿は単票式で行い、個人情報書類などは適切に保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員は入居者様の思いや希望を聞けるような声かけを心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたか、希望にそって支援している	食事など決まった時間での声かけは行うが、無理強いせずその方のペースを大切に、職員の都合を押し付けないよう心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人様が自身で選択され衣類を着ている。混乱がみられたりと、必要時には声かけを行っている。困難な方には季節や気候に合わせた洋服を選んでる。		

グループホーム せせらぎの里

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	月のメニューが決められており、食材は配達をしてくれている。入居者様は出来る範囲で下膳などの片付けなど行っている。	食材を見て好みの調理に変更することもある。駐車場で焼き肉料理を楽しんだり、行事で「寿司そばセット」の出前を取っている。職員と一緒にブランチでミニトマトを作り、食卓に添えている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量は普通の一人一人の召し上がる量に合わせて提供を行っている。飲水量は1日あたり1000～1400ccを目標に水分確保に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを行い、自身で行うかたには声かけをし口腔ケアを促している。口腔内に問題があれば、往診の歯科医に相談し必要であれば治療をして頂いている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	介助が必要な方には2時間を目安に声かけや誘導を行っている。また、個々の排泄パターンを出来る限り把握出来るよう努めている。	全員の排泄を記録し、昼夜間ともトイレでの排泄を支援し、立位がとれない場合は安全のため居室でパッドを交換している。意向を聞きながら衛生用品も使用し、6割以上は自力で排泄ができています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の対応表を主治医が作成しそれを基に対応しているが、他の対応が必要な方には医師や看護師に相談しながら個別に対応をしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	3日に1回のペースで入浴を行っている。朝のうちに声かけをし、気分がのらないときは別の方にし対応している。また、入る曜日を決めておきたい方には個別に対応している。	いつでも入れる態勢で1日に3名とし、週2回の入浴を支援している。同性介助の希望にも対応している。身体的な状態からシャワー浴を行うこともある。その都度湯を入れ替えて湯船に入り、職員と会話を楽しみながら気持ちよく入っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼食後に昼寝の時間を設けている。それ以外の時間でも一人一人の状態をみながら休んで頂いたり声かけを行うなど支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	スタッフルームに入居者様全員の薬情を置いており、すぐに確認が出来るようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご自身の洗濯物を畳んだり、好きな本を提供したり、誕生日には誕生会を行い、クリスマス会などの季節ごとの行事ではレクリエーションも行っている。		

グループホーム せせらぎの里

自己評価	外部評価	項目	外部評価		
			自己評価	実施状況	
			実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出行事を行うことは出来なかったが、ホーム横でバーベキューを行うことが出来た。天気の良い日には入居者様と隣の薬局やコンビニへ出掛けしている。	暖かい時期には車椅子利用の方と一緒に、近くの公園や近隣住宅の庭の花を見て散歩している。個別の意向に沿って薬局、コンビニエンスストア、洋品店の買い物に同行している。今後は数人のドライブで、季節が感じられる外出を検討している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は事務所でやっている。入居者様から希望があった際は一緒に買いに行けるものは同行し、困難な場合は職員が代行し購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	出来る体制ではあるが、現在電話や手紙を希望される方はいない。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	月ごとに担当を決め、季節に合わせて掲示物や飾り付けを変更し、居心地が良く季節を感じて頂ける空間作りを心掛けている。	キッチン、スタッフルームを中心に廊下は回廊型で居間から見えない場所に、3か所のトイレや浴室が配置してある。居間の大きな窓から外の景色が眺められる。壁には季節の装飾や作品、小学生が作成したちぎり絵などが飾られており、家庭的な雰囲気になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間では独りになれる場所を確保することが困難である。出来る限り快適に過ごせるよう座席を考えている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前にご家族様へ馴染みの物を持参することが可能であり、重要であることを伝えている。居心地良く過ごせるよう支援している。	居室には洗面台とクローゼットを備え付け、ベッドも用意されている。自宅からタンスや仏壇などが持ち込まれている。時計、縫いぐるみ、アルバムを置き、壁には家族の写真や作品が飾られている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所など、廊下にわかる言葉で掲げ出来る限り自立した生活が送れるようにしている。		

目標達成計画

事業所名 グループホーム せせらぎの里

作成日：令和 1年 12月 10日

市町村受理日：令和 1年 12月 25日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	地域との協力体制を確認し、避難訓練に地域住民の参加が得られるような働きかけを期待したい。計画的に職員の救命救急訓練の受講を進めるよう期待したい。また、地震災害時などのケア別の対応について話し合うよう期待したい。	救命救急訓練の受講をする。ケア別の対応についての話し合える場を設ける。	ケア別の対応について、月1回行っているミーティングの場や避難訓練後の振り返りで話し合っていく。また、救命救急訓練はシフトの調整を行い数名ずつ受講できるように取り組んでいく。(シフトの都合によるため右記の期間は長めにみて6ヶ月とした)	6ヶ月以内
2	4	テーマを記載した会議案内を全家族に送付し、参加できない家族の意見を事前に聞き取り、会議に活かすよう期待したい。	恒常的に家族が参加する。参加が出来なくても意見の聞き取りを行い反映していく。	運営推進会議をいつ行うかの案内を送付する。案内の中に議題、話し合うテーマを記載し興味があるときは参加して頂けるよう促していく。面会時などにもお声かけをしていく。	令和元年度中
3	26	介護計画の見直しの一連の流れが分かりやすいように書類の整備を期待したい。	書類の一連の流れが一目で分かるようにする。	書類を分野毎にし、一連の流れが一目で分かるよう見直しを行う。また介護計画サービスに番号をふり、その番号を生活記録に記入することで繋がりのある内容にしていく。	1ヶ月以内
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。